

『女性が仕事をもちながら子育てできる環境を!』

射水市男女共同参画推進委員会 委員長 瀬山和子

市の男女共同参画推進条例や男女共同参画基本計画の理解を深めていただくため、市と推進委員会が協働で、市内5地区への巡回講座を開催しました。

映像、あるいは朗読劇による普及啓発を試みて問題提起されたことは「女性が働きやすい職場づくり」です。

今日の社会情勢や長寿社会にあって、多くの女性が仕事をしています。必要な知識や技能を磨き、自分を養うなど、就業は生活の基礎となるものです。

しかしながら一方では、結婚・出産・育児のため就業を一旦中断すると職場復帰が困難となり、自分の能力や経験を活かせる仕事につけない。あるいは経済的な理由で第2子以降は産めないと言われていています。

このようなことに起因して少子化が進んでいると思いますが、解決策はあるのでしょうか?



富山県では、女性が働きやすい職場づくりの推進役となる「男女共同参画チーフ・オフィサー」制度があります。

この制度は、トップダウン方式で企業内の男女共同参画を促進し、仕事と家庭の両立支援、女性の積極的な登用推進に取り組むものですが、該当する企業は70社余りとのこと。

女性が仕事をもちながら子育てができる環境づくりの必要性や県の制度が広く理解されることで少子化の緩和につながればと思います。



DVを知っていますか?

ドメスティック・バイオレンス(DV)とは?

夫や恋人などの親密な関係にある男性から女性に対する「暴力」をいいます。ドメスティック・バイオレンスにおける「暴力」とは、殴る、蹴るなどの身体的な暴力だけではなく、「誰のおかげで生活できるんだ」と言う、などの精神的な暴力も含まれます。

11月7日(土)、市内の商業施設でDVの街頭啓発を行い、リーフレットやティッシュを配布致しました。

立ち止まってゆっくり読み、うなづいている人も大勢おられましたが、まだまだDVについての関心度は浅いのかなと感じました。

私の娘にも聞いてみたところ、言葉だけは知ってました。実際に身にふりかかるとなると怖いことですよ。



市男女共同参画基本計画の目指す姿

男女が家庭、職場、学校、地域等の社会のあらゆる分野で、それぞれの個性や能力を十分に発揮して、喜びと責任を担いながら、いきいきと暮らしている社会の実現を目指しています。私たち推進委員会も、行政と協働で計画の普及・啓発を図ります。

家庭では



- ◆仕事と家庭が両立し、家事、育児、介護等を男性も女性も家族みんなが分担し、喜びも責任も分かち合っています。
- ◆男女という性別にとらわれず、「その人らしさ」を大切にしながら、個性を重視した家庭が営まれています。
- ◆家庭内で暴力のない明るい家庭が営まれています。

学校では



- ◆男女という性別にとらわれず、個性と思いやりのある子どもたちが育っています。
- ◆進学や就職等、個人の適性を尊重した進路指導がなされています。



- ◆地域における様々な企画や方針決定の場に女性の参画が進み、男女ともに豊かで住みやすい地域づくりに貢献しています。
- ◆地域における性別による固定的な役割分担に基づく、慣習やしきたりが見直され、男性も女性もそれぞれの行動や考え方が尊重されています。
- ◆男女が、ボランティアやサークル活動、NPO活動等地域活動に積極的に参画しています。
- ◆子育てや介護等の社会的支援が充実し、女性が社会参画しやすい環境になっています。
- ◆高齢者も知識や経験を活かし、積極的に地域の社会活動や文化活動に参画しています。

職場では



- ◆募集・採用や昇進・配置、賃金等で男女格差が解消され、個性、能力、意欲等が、十分に発揮されています。
- ◆家庭生活や地域活動とバランスのとれた労働時間が確保され、男女がゆとりと充実感を持って働いています。
- ◆母性保護をはじめ男女の健康管理が配慮されています。

地域では

男女共同参画巡回講座に参加して

男女共同参画社会の理解を深めるため、6月から市内各地で巡回講座がひらかれました。「市男女共同参画推進条例、基本計画の概要」について、市の担当から説明があり、推進員による寸劇もありました。

また、参加者からは自治会の中に女性部ができ、各行事に参加する人が増えたという意見も出ました。

【小杉地区】

委員の皆さんによる朗読劇は、自らの意志によってあらゆる分野の活動に参加する姿が演じられていた。互いの人権を尊重し、豊かな個性を理想とするが、現実はまだ根強い格差が見受けられる。子どもたちには、のびのびと国際社会に自信を持って参画してもらいたい。推進条例の実行は、私たちの課題として共に実現していく必要があると感じた。

【小杉地区】

- 「市男女共同参画推進条例、基本計画の概要」について行政の説明がわかりやすく、うなづく所が多かった。
- 推進員による「ひらかれた自治会」の寸劇から、今までどうして男性ばかりだったのかと改めて痛感したのと、是非女性も自治会の組織の中に入れてもらって、よりひらかれた自治会作りをしたい。

【大門地区】

クリスマスケーキ作り

12月22日(金)午後7時30分から新湊公民館において男性参加者25名とクリスマスケーキ作りを行いました。

皆さん和気あいあいと四苦八苦しながらも自分の出来栄えに満足顔で持ち帰られました。「楽しかった、また来年も」との声に、サポートしている私達もあっといふ間の楽しい時間でした。

「介護を共に学ぶ」

2月6日(水)大門「こぶし園」で介護教室を開催。10代から60代の男性が参加されました。

車椅子の体験、ベッドからの移動、とろみ飲料の試飲をしました。

車椅子体験では、段差の昇降での気の使い方、ベッド移動の力の入れ方など、コツを学ぶことで楽に介護できることを学びました。



とろみ飲料の種類も多くあり、症状に合わせて食の楽しみを続けられるなど大いに参考になりました。

サンドイッチ作りと朗読劇

下地区では2月23日(土)家族でサンドイッチ作りを楽しみました。

今年は若い人を対象とし、小学校のPTAに呼びかけたところ12組32人も参加がありました。食生活改善推進協議会の方を講師にロールサンドイッチを作ったり、それぞれの家のサンドイッチを作ったり、パパさんもエプロン姿で大張り切り！子ども達もとっても楽しそうでした。

サンドイッチが出来たところで、朗読劇「地域が変われば社会が変わる」「お父さんの入園・入学式」を行いました。みんな進んでキャストになってなかなかの名演技でした。サンドイッチ作りと朗読劇、家族で作る楽しさ、仲間と集う楽しさの中で、男女共同参画を少しでも理解してもらえたかなと思っています。「家の主人は男女共同の協力者です」という感想文がありました。心強い限りです。後片付けも若いお父さん達は一生懸命でした。

- 子どもの声
- サンドイッチの作り方がわかって良かった。
 - 自分で作ったサンドイッチはうまかった。



おじゃましま〜す むらづくり熱中塾(大島)

「男子厨房に入るべからず」と言ったのは昔の話。

料理に関心を持つ男性が増えています。エプロンを持参した男性が続々集まってきました。皆、緊張の面持ちです。メニューは「にぎり寿司・かぶら寿し」。

この塾に参加した男性から「自分で釣った魚や女房が採った山菜を料理するのが楽しみ」「家でも料理をしますが、レベルアップのため参加しました」の声。

見知らぬ同士でしたが、協力して調理するうちに意気投合。緊張の面持ちはどこへやら。笑い声があちこちから聞こえ楽しそうでした。

男性の料理教室

休日の午前中、金山保育園児のお父さん達がにぎり寿司にチャレンジ。キトキトの食材を前に真剣そのもの。

アジ、フクラギ、イカ、イクラやウニの軍艦巻き、だんだん上手になって、ご飯粒も手につかなくなりました。お土産の「わさび抜きにぎり寿司」のパック詰めも納得いく出来上がり。

後日、お父さんの株が上がったと大好評でした。

日本女性会議2007ひろしま



日本女性会議2007ひろしまに参加して

前手 政幸

平成19年10月19日、20日に開催された「日本女性会議2007ひろしま」では、企業の社会的責任（CSR）と社会的責任投資（SRI）－ワーク・ライフ・バランス－の観点からと題した分科会に参加しました。

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）は、女性や子育て世代だけでなく、誰もが家庭や地域社会で責任を担う、全ての人の問題であるといわれています。

企業の目標は富と雇用を創出することかもしれませんが、今的には、ワーク・ライフ・バランスの実現が企業の果たす社会的責任（CSR）とされています。

男性にとっても女性にとっても働きやすい職場は、従業員の意欲や満足度、心身の健康の向上、人材の確保をはじめ、企業・組織経営にプラスに働くなど、結果として少子化対策や男女共同参画社会の実現に繋がるという内容でした。

私たち自身も身近な問題である、ごみの分別やエコバッグの利用など、社会的責任を果たすことが必要だと思えます。

日本女性会議は、今年10月17日、18日に富山市で開催されます。

男女共同参画研修会「講演会を聴いて」

演題 男女平等・共同参画で未来の見える人生を
講師 野村 乙美 氏（高岡市男女平等推進センター所長）

「未来の見える人生を」と題し講演された野村氏は、女性でありながら威風堂々とし、人間を観察し尽くした自信で溢れていました。

年代別になすべき事のポイントを分かり易く説明され、夢中で聴き入ったものです。

私が興味を持った年代は50代・60代で、この年代は40代返にした事が全部自分に返ってくるブーメランの法則世代という点。現在の私が正に40代。しっかり身を入れて人格形成しておかなければと思った次第です。（Y記）



編集後記

私たち推進員が日頃の研修等で勉強した事を色々な人との出会いの中で話し合っていけば自然と周囲の人も変化する、そんな気がします。



この広報紙が皆様に末永く親しまれ、愛されるよう、ぜひ一読いただき、男女共同参画についてご理解を深めていただければ幸いです。

広報委員 秋元 國男
山崎 京子

